

## 第2号議案 平成19年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件

### I. 平成19年度事業計画

平成19年度は、これまでの物理探査学会で実施してきた、講演会・講習会・技術キャラバン・キャンパスビジット・研究開発コンソーシアム等の事業を継承し、発展させるとともに、公益法人として会員へのサービスの拡大と一般社会へのPR活動にこれまで以上に力を注ぐ所存であります。

一方、平成19年度も引き続き、全ての行事に対して、可能な限り無駄を省き、また、管理費についてもさらなる見なおしを継続する等、財政改革に精力的に取り組めます。財政改善に大きな力を発揮してきているWEB改革についても、今年度を最終年度として推進しますが、そのための一時費用については基金を取崩して充てる計画です。

さらに、当学会が平成20年度に60周年を迎えるに当たり、その記念事業の準備にも今年度は取り組みます。準備は、基金を取り崩して進めることを考えております。また、平成18年度に計画していたニュースレターを60周年を迎える平成20年には発刊できるように再度着手します。

また、平成21年度から施行される新公益法人制度に向けて、公益法人として認可いただけるよう準備を開始いたします。新団体法人は、これまで以上に公益性、すなわち社会への貢献が必要になりますので、会員サービスの向上を含めて、学会活動をより一層活発・充実させていく必要があります。会費の改訂についてもこの1年間に真剣に検討し、会員の皆様にご理解をいただきたいと思っております。

このような基本的な考えで、平成19年度も皆様のご協力・ご支援のもと、以下の事業を継承、発展させ、学会活動の充実を目指します。

#### 1. 学会事業活動計画

##### 1) 研究発表会、講演会等の開催

以下に示す講演会、セミナー、講習会、シンポジウム等を実施する。

###### 第116回学術講演会

開催日 平成19年5月28日(月)～5月30日(水)

開催場所 早稲田大学(東京)

###### 第117回学術講演会

開催日 平成19年10月6日(土)～10月8日(月)

開催場所 北海道大学理学部(札幌市)

###### 物理探査セミナー

開催日 平成19年6月20日(水)～6月22日(金)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)

###### SEG Distinguished Instructor Short Course (DISC)

開催日 平成19年4月2日(月)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)

###### 斜面講習会

開催日 平成19年6、9、12月及び平成20年3月開催を予定

開催場所 仙台、名古屋、広島、福岡を予定

###### ワンデーセミナー

開催日 平成20年1月下旬を予定

開催場所 首都圏を予定

###### キャンパスビジット(半日程度のセミナー2回を予定)

開催日 平成19年秋季

開催場所 千葉大、横浜国大等を予定

##### 2) 会誌発行

平成19年度は、学会誌「物理探査」Vol.60 No.1～No.6の6冊を発行する。そのうちVol.60 No.1は豪州

物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同出版とする。また、学会誌の内容改革を継続するとともに、電子投稿システムの運用を開始し、Vol.60 No.2 から論文集の電子化発行を実施する。ニュースレターは 60 周年の平成 20 年度にニュースレターの印刷物を発行する計画とし、平成 19 年度には WEB で公開できるよう、ニュースレター委員会を立ち上げ準備を始める。WEB についても、より見やすく分かりやすい内容に改訂する。

### 3) 出版物の頒布

平成 19 年度は、物理探査ハンドブック、物理探査適用の手引き、英文物理探査適用の手引きに加えて会誌等学会の在庫書籍の販売を行う。

- (1)物理探査ハンドブック
- (2)物理探査適用の手引き(とくに土木分野への利用)
- (3)物理探査適用の手引き(英文)
- (4)会誌等の在庫

### 4) コンソーシアム活動

コンソーシアム活動は、特定の目的に対して期間を定め集中して調査・研究開発および関連の受託業務を行うものである。平成 19 年度は下記のような活動を継続的に実施する予定である。

- (1) 研究委員会活動
- (2) 業務受託活動  
(独)産業技術総合研究所、(独)土木研究所などからの受託業務を、会員の協力で良い成果をあげ継続して受託できるよう努力する。

### 5) 研究会活動

研究会とは、物理探査技術の特定の目的に対して学会員の有志によって広く継続的に研究を行う集まりであり、下記 3 研究会がある。いずれの研究会も年数回の研究発表会を開催する。時期・場所・テーマについては未定であるが、平成 19 年度は地震防災研究会主催のシンポジウムを開催する予定である。① 地盤探査研究会、② 電気探査研究会、③ 地震防災研究会

### 6) 研究業績の表彰等

平成 19 年度も平成 18 年度と同様に以下の表彰等を行う。

- (1) 物理探査学会賞
  - ・物理探査学会論文賞、業績賞  
会誌に発表された論文の中から特に優秀なものに物理探査学会論文賞を、また、探査技術の進歩に寄与あるいは著しい探査成果をあげた業績の中から特に優秀なものに物理探査学会業績賞を授与する。
  - ・物理探査学会奨励賞  
若手会員の活動を評価・支援するべく奨励賞を授与する。
- (2) 永年在籍表彰  
永年(30 年、50 年)に亘り学会に在籍し、功労のあった正会員および学会の発展に貢献した賛助会員を表彰する。
- (3) 運営功績表彰  
学会の運営に特段の功績があった、会員、委員会等を表彰する。
- (4) 学術講演会等における優秀発表賞  
平成 18 年度に引き続き、学術講演会等の活性化と技術の向上を図るため、若手研究者、技術者(40 歳以下)に優秀発表賞を表彰する。

### 7) 関連学術団体との連絡及び協力

- (1) 学会との講演会協賛  
平成 19 年 5 月に日本地球惑星科学連合大会では当学会名で 3 セッションが開催される。

併せて、従来どおり、(社)資源・素材学会、(社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(社)日本地震学会、日本応用地質学会、(社)地盤工学会、計測自動制御学会、石油技術協会等、関係の深い学会と講演会等で相互に協力する。

(2) 継続教育活動支援システムについて他学会との協同運営

技術士継続教育活動について、関係 7 学協会と生涯学習支援システムの共同運営を継続する。

8) 国際交流

関連国際学会との国際交流を推進する。

関連国際学会の下記講演会・年次総会に参加し、国際交流を深める。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)( 6 月 11 日～14 日)
- ・米国物理探査学会(SEG) ( 9 月 23 日～28 日)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)( 4 月 1 日～5 日)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)(11 月 18 日～22 日)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)

9) 臨時委員会

(1) 標準化検討委員会

18 年度の引き続き、新しい物理探査の手引き「物理探査および物理検層の基本とマニュアル作成」に取り組み、20 年度の完成を目指す。

(2) IT 化改革委員会

学会の活性化を図るため、継続して学会業務の IT 化を推進する。

(3) 60 周年記念事業実行委員会

当学会が平成 20 年に 60 周年を迎えるに当たり、新たに委員会を設置し、記念特別事業を検討し、推進する。

10) 広報活動

会員サービスをさらに向上させるため、計画に沿って学会 WEB の第 3 ステージの改革を進め、平成 19 年度でシステム構築を完了する。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

- |          |   |
|----------|---|
| 1) 通常総会  | 平成 19 年 5 月 29 日、東京 早稲田大学国際会議場にて開催する。                             |
| 2) 理事会   | 平成 19 年度中に 6 回開催する。<br>(平成 19 年 4 月、6 月、9 月、11 月、平成 20 年 1 月、3 月) |
| 3) 運営幹事会 | 平成 19 年度中に 4 回開催する。<br>(平成 19 年 7 月、10 月、12 月、平成 20 年 2 月)        |
| 4) 評議員会  | 平成 19 年度に 2 回開催する。(時期、場所未定)                                       |

II. 平成 19 年度収支予算

これまでに学会業務の IT 化を推進してきたことによる効果が出てきております。特に会誌出版費が平成 18 年度予算に比べて平成 19 年度予算では約 400 万円もの大きな削減の見通しとなりました。

それによって、平成 19 年度はこれまでの赤字財政がかなり解消できる見通しの収支予算となりました。

しかしながら、さらなる学会の発展に向けての基盤整備のために、活性化基金から IT 化推進(WEB 改革)のために 100 万円、平成 20 年度に 60 周年を迎えるに当たりの記念事業準備のために 150 万円、また学会の活性化事業費(評議員会の開催)として 50 万円の取崩をそれぞれ計画しています。

まだまだ、基金に頼らざるを得ない状況にはありますが、なお一層の財政改革を推進すると共に、学会の発展に向けて益々努力する所存でございますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。